



## 読書，いかがですか

校長 前田 倍成

私には、小学校高学年の頃、推理小説の他にハマっていた本がありました。それは野外生活を送るためのノウハウを書いた本です。その系統の本を読み漁っていたことをよく憶えています。どうしてかといえば、結局いつしかその夢は忘れ去ることになりましたが、当時の私の夢は「羊飼いになる」ことだったからです。ちょっと短絡的ですが、そうなるために必要だと考えたのが、野外生活、いわゆるサバイバルのノウハウを身に付けることだったわけです。

「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの（第2条）」（子どもの読書活動の推進に関する法律 平成13年法律第154号）とされます。これに基づく国の『子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第五次）』（R5.3）においても、急激に変化する時代に必要とされる資質・能力を育む上で、読書活動の推進は不可欠であると位置づけられています。

しかし、現状は、子どもたちの不読率（1か月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合 ※マンガ、新聞、雑誌は除く）が、小学生（4～6年）7.0%、中学生13.1%、高校生43.5%（令和5年度「学校読書調査」全国学校図書館協議会）と、まだ高い傾向にあるのです。

では、本校ではどうでしょう。国・県学力調査の質問紙調査結果（R6）をみると、

□「読書は好きだ」

肯定的回答 4年生 87.0% 6年生 79.5%

□「普段（月～金）1日あたりどれくらい読書をしますか」

（電子書籍含む 教科書・参考書，漫画，雑誌は除く）

6年生 30分より多い 37.7%（内，2時間以上9.4%）

10分より少ない 11.3%      全くしない 23.6%



と、上述の不読率の定義には合いませんが、平日の読書を「全くしない」という子どもの割合は、だいたい4人に1人という結果でした。

こうした現状の改善には、子どもの読書活動の意義を踏まえ、全ての子どもたちが本に接するための環境整備及び取組の実施が重要です。また今後は、多様な子どもたちが利用しやすい書籍及び電子書籍の整備・提供や、多言語対応等、学校図書館、図書館等の読書環境の充実も求められています。

本校は、3年前、子どもの読書活動について文部科学大臣賞を受けています。また日頃から、学校図書館司書を中心に、図書ボランティア、読み聞かせボランティアの方々、児童図書委員会のみんなが、本に親しみ、楽しく読書ができるよう、様々に工夫を凝らしています。

このような読書を取り巻く状況の中、本校ではここ最近、複数の外部団体や個人から、学校図書館へ図書購入費の助成、寄贈が続きました。感謝の意を込めて紹介いたします。

[外部団体から]

□ 真柄教育振興財団 「まごころ文庫」助成

□ 日本教育公務員弘済会石川支部 学校図書助成

[個人の方から]

□ 故 金谷節夫氏（元旧志賀中学校長）のご家族（叙勲記念として）

□ 東京都在住の匿名希望二児の母さん（被災地支援として）

金谷節夫文庫

真柄教育振興財団

まごころ文庫

多くはこれから購入準備，書架配置にかかるのですが，こうした温かいお力添えに，子どもたちが実際に本を手に取り，自らの興味関心を広げていく様子が目に浮かんできます。関係各位の皆様には，心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

— 受賞，おめでとうございます —

【グレンツェンピアノコンクール東京本選大会】

小学校5・6年生Aコース 準優秀賞 6年生 大谷 美歩

